

笑い声が帰ってきた



園舎を修復



能登半島地震で園舎が被害を受け、近くの小学校の空き教室を「仮園舎」にしていた石川県穴水町の光琳寺保育所（長谷川遼磨園長＝光琳寺住職）が復旧工事を終え、12月2日から境内に隣接する元の園舎での保育を再開させた。長谷川園長は「被災から1年。ようやく元の園舎を利用できるようになった。保護者から『仮園舎には行きたがらなかった子が、元の園舎に通えるようになってとてもうれしそうにしている』という言葉もいただいた。無事復旧できて本当によかった」と安堵の表情で語った。

同保育所は、地震で園舎を支える石垣が大きく崩れ、建物が傾斜して保育活動が不可能に。地震後の片付けなどに追われる保護者からの「何とか子どもを預かってもらうことはできないか」という願いに応えようと、長谷川園長が教育委員会や行政にかけあい、3

石川県穴水町・光琳寺保育所

月初めから同町・向洋小学校の4つの空き教室を間借りして保育を継続させた。長谷川園長は「発災から間もない中で何とか保育を再開でき、卒園式も行えたことはひとまずよかった。ただ、クラスが2つにしか分けられず、給食についても、保育所の調理場で調理してから車で運んだり、先生方には大変な負担をかけた」と振り返る。

工事が着工できたのは昨年5月。そこから約半年かけて、石垣をコンクリートの擁壁に改修し、亀裂の入った体育館は床下にコンクリートを流して全面張り替えるなどした。

長谷川園長は「園舎は復旧できたものの、園児の送迎に利用する道路はでこぼこのまま。厳しい積雪の時期を迎えるが、除雪車が入れるかもわからない。震災を機に、地域や門徒の方も遠方へ移住し、保育所やお寺との縁がなくなってしまうのではと、数えれば不安はつきない。それでも今はただ、元の園舎で楽しそうに笑う子どもたちを見られることに安心したい」と語った。